

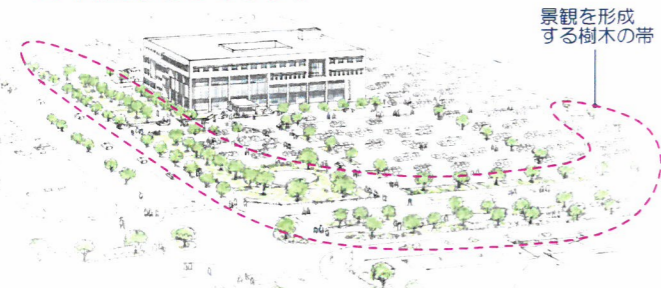
### 私たち子どもたちのその先から見返す 21世紀の〈今〉と〈これから〉

行政、文化、交流機能等の公益的施設の立地を図る「シビックゾーン」（郡山拠点地区計画）の、文字通り中核施設となる福島県郡山合同庁舎は、必ずしも視界の見通せているとは断定しにくい21世紀を生き抜いてゆくことになり。そのために、明快でどっしりとした外観や年月を経て味わいや風格を増す素材、構造耐力、などの〈変わらない要素〉と、組織構成や使用形態、各種機器・配管、エネルギー源の多様化、などの〈変わるであろう要素〉との両面を意識しながら、県民の拠り所として永く安定した存在を維持できる施設となるよう提案をします。

（1）県民の利便性向上及び快適な執務空間の確保に関する提案

### 明快な建物 ～「緑のつながる庁舎」～

- 敷地のまわりは商業施設が多く、緑の少ない潤いの少ない街並みです。ビッグパレットふくしまの樹木帯とつながる樹木の多い「緑の大地」をつくり、新しい街並みをつくりたい。



街に潤いを与える敷地と建物のイメージ

### ■アプローチについて

- 庁舎棟は敷地の北西側にコンパクトに配置し、メインアプローチとなる西側道路に対する景観を整えます。
- 西側道路から庁舎正面エントランス、駐車場へのメインアプローチと北側に職員、サービス車両等アプローチの2ヶ所をもうけます。
- 来庁者、ビッグパレットふくしまの来場者等がスムーズに駐車場を利用できるよう、南側に2ヶ所のアプローチをもうけます。
- 庁舎正面エントランスには車寄せをもうけ、雨や雪にも濡れずに出入りできるキャノピーをもうけます。

### ■駐車場について

- 庁舎を囲むように駐車場を南側・東側にもうけ、庁舎にアクセスしやすい配置にすると同時に、鉄道線路からの騒音や振動を低減する計画とします。
- 広さにゆとりのある駐車スペースとし、安全性に配慮します。また一部をパーキングパークとして整備します。
- 庁舎にそって「思いやり駐車場」、来庁者用の少数の車が止められる駐車スペースをもうけます。
- 庁舎に近い位置に駐輪場をもうけます。

### ■外構について

- 道路の敷地の高低差、大雨による敷地への浸水に配慮した外構計画とします。
- 道路との高低差は、緩やかな勾配による緑地帯にて調整し、敷地内は段差のない一定の高さとし、まわりの緑地帯にて高さを調整します。
- 南、西側の道路に沿った緑地帯、庁舎まわりの緑地帯に木を植え、街路樹やビッグパレットの樹木帯と一帯となった樹木の四季の変化を楽しむ景観をつくりたい。

### 「中庭を巡る明快な平面構成」

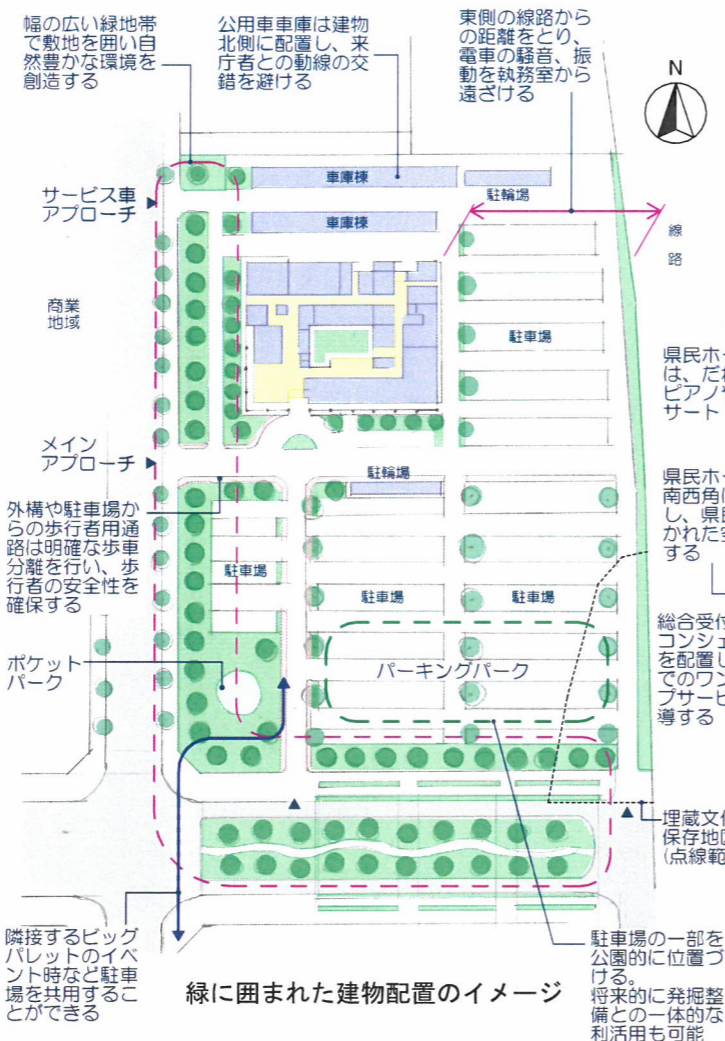
- 庁舎は中庭を持つロ字型の配置とし、各機関の執務室はワンフロアにまとめます。採光、通風の環境にも配慮した使いやすく、来庁者にわかりやすいシンプルな構成とします。

### ■来庁者が利用しやすい庁舎

- エントランスを入ると、総合受付、執務室、県民ホール、EV、階段室、パスポート室等、目的の室がわかりやすい各室の配置とします。
- 2、3、4階においても、EV、階段室まわりに来庁者目的の室を配置し、各機関の執務室が近く来庁者に寄り添った利用しやすい配置とします。

### ■働く人が使いやすい庁舎

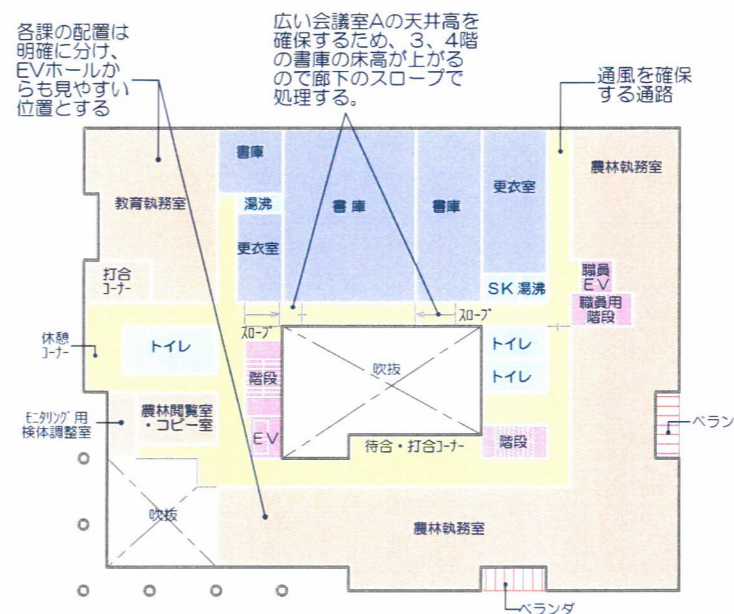
- 執務室は中庭を囲む南側、東側にそったL型のシンプルな配置とします。
- L型の執務室の中央に上下階に連続する階段室をもうけ、書庫、職員更衣室、職員専用EV、トイレ、休憩コーナーを執務室のまわりにまとめ、職員の連携など働く人の動きがスムーズで使いやすい配置とします。
- 中庭に面して待合コーナー、パーテーションをもうけた打合せコーナーを配置し、職員が執務室から出て打合せするなど感染症にも対応できる場をつくりたい。
- 執務室はローカウンターを基本とし、各係の領域を低層書架等でエリア分けするなど、見通しがよく外部空間から光の入る快適な空間をつくりたい。



緑に囲まれた建物配置のイメージ

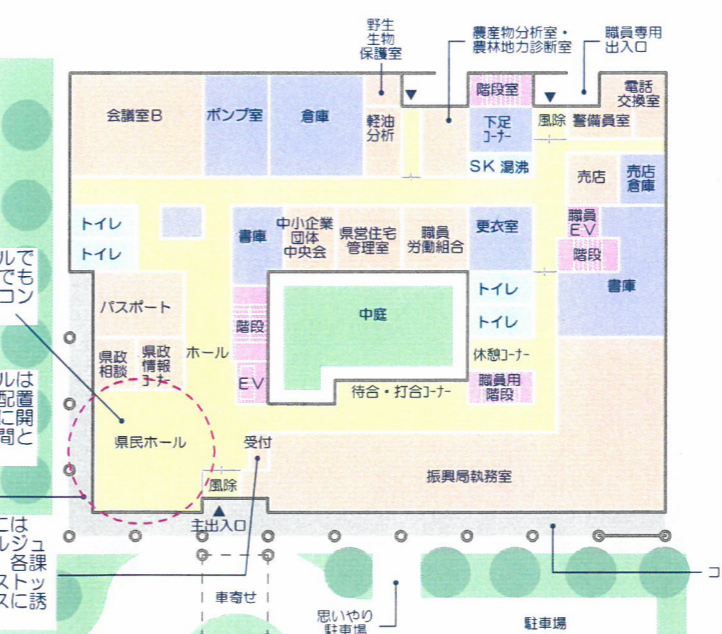
### ■柔軟な対応の庁舎

- 車いす対応エレベーター、多機能型トイレの設置、わかりやすい案内表示をするなど、誰にでも使いやすいユニバーサルデザインの考え方で計画します。
- OAフロアを採用し、レイアウト変更や無柱空間を確保し、機構改革等に柔軟に対応できる計画とします。



### 3階について

- EVホールに隣接して農林閲覧室、中庭を囲むように農林執務室をもうけます。
- ホールから北側に向かって打合せ室を持つ教育執務室をもうけ、隣接して書庫をもうけています。

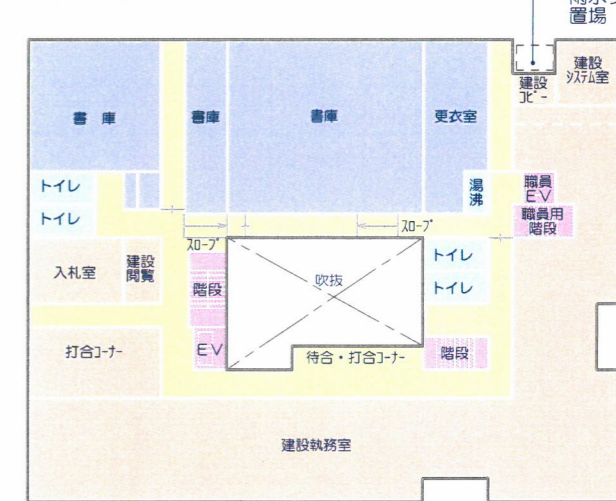


### 1階について

- エントランスを入ると総合受付、右方向に中庭を囲むように振興局の執務室、正面方向にEV、階段室、県民ホール、パスポート室、会議室Bなど来庁者の多い室を執務室と分けた明快な動線としています。
- 中庭に面して職員労働組合、県営住宅管理室、中小企業団体中央会の各室を配置しています。
- 北側は職員専用入口と農産物分析室、軽油分析室、野生生物保護室へ直入れれる入口を1ヶ所もうけています。

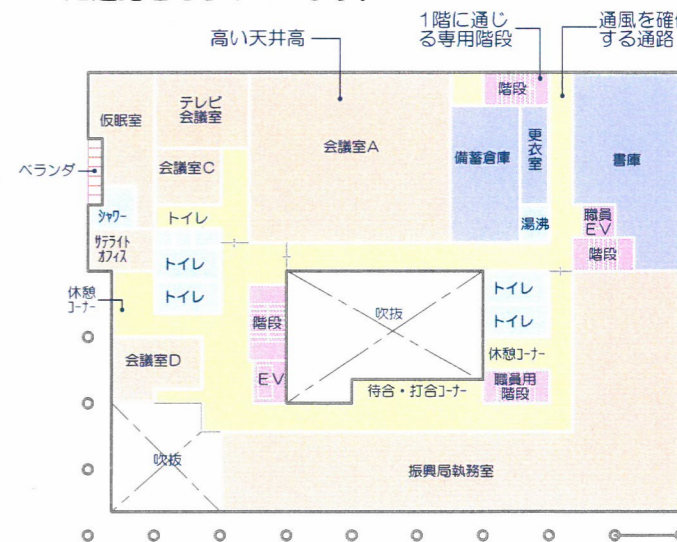
### ■開放的な情報発信の場

- 県民ホールは、3層吹抜の空間とし、緑の外部空間を取り込んだ街に開かれた場をつくりたい。
- 県民ホールは、県政情報コーナー・県政相談室と共に情報共有の場として県や市町村の情報の発信する場をつくりたい。
- 来庁者だけでなく一般の人々が利用しやすいコミュニティの場として、県産材を使用した内装などほっとする快適な空間をつくりたい。



### 4階について

- EVホールまわりに入札室、建設閲覧室、打合せ室をもうけ、執務室は南側、東側に面したL型の配置とします。
- 北側に書庫を配置しています。
- すべての階に自然風による換気等に配慮した外部に面した通路をもうけています。



### 2階について

- EV、階段まわりにWeb会議等に使用する会議室、サテライトオフィスをもうけ、中庭に面して待合、打合せコーナー、振興局の執務室を配置し、来庁者がわかりやすい配置としています。
- 北側に危機管理機能を持つ各室を1つのブロックとしてまとめ、災害対応等の防災拠点の施設として業務を速やかに進める各室を配置しています。特に会議室A、備蓄倉庫は職員の移動が速やかにできるように1階に通ずる専用階段をもうけています。

(2) 県民の安全・安心の拠点となる庁舎のあり方に関する提案

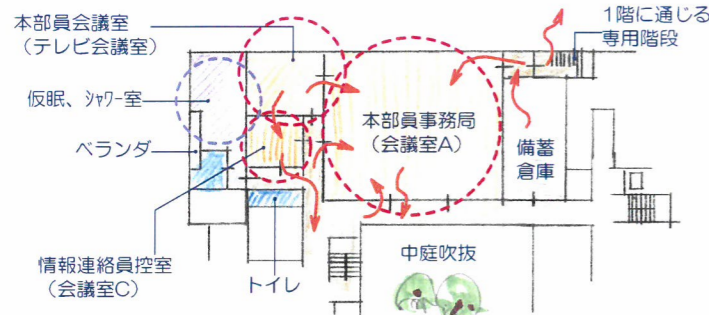
非日常に備える日常

「県民の心の支えとなる庁舎」

- ・・・建物は華美を廃し、安全で長持ちする庁舎とします。地震、大雨による庁舎への浸水などあらゆる災害に行政機能が継続的に維持できる県民の心の支えとなる高度な機能を持つ防災拠点をづくりま。

■防災機能について

- ・防災機能を備えた各室を1つのブロックで構成した災害対策地方本部を2階に配置します。
- ・テレビ会議室（本部員会議室）、会議室A、会議室Cを中心として災害対応拠点とし、災害に対して円滑に対応できる配置とします。
- ・災害時の給水確保は通常時も踏まえ、受水槽+高置水槽（屋上）方式を採用します。トイレ等の給水は雨水利用を検討します。
- ・停電時の電源は屋上に設置した自家発電設備を稼働させ、来庁者や職員の安全性を確保するとともに、庁舎としての機能を継続的に維持します。
- ・ビッグパレットふくしまと連携した防災計画とし、防災体験ができるイベントや訓練を行うことができます。



災害時の機器管理機能の考え方

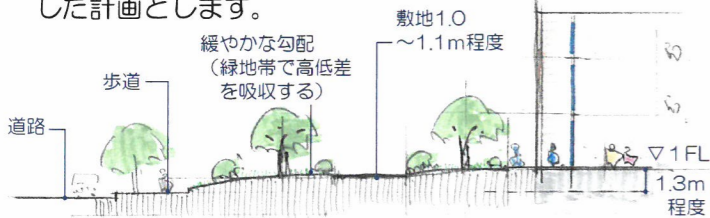
■耐震性について

- ・・・庁舎の構造は防災拠点の施設として、災害時来庁者や職員の安全を確保し、建物、設備、情報設備、什器備品など行政機能が維持できる震度6強以上に耐える構造体とします。

- ・構造形式、構造種別を比較検討し考察すると、大地震時に庁舎機能を継続させるには、鉄筋コンクリート造+基礎免震構造とします。
- ・会議室等長大スパンには、プレストレスト大梁を配置して無柱空間とします。
- ・基礎計画については杭基礎とし、杭工法は場所打ちコンクリート杭あるいは既存杭を想定し、コスト比較および環境に配慮しているか検討を行い決定します。

■浸水対策について

- ・西側道路は南側に向かって緩やかに下がっています。敷地周辺はハザードマップによる浸水は約0.5~0.9m程とみられます。庁舎1階床レベルを1.3m程度に設定した計画とします。



緩やかにマウンドした外構のイメージ

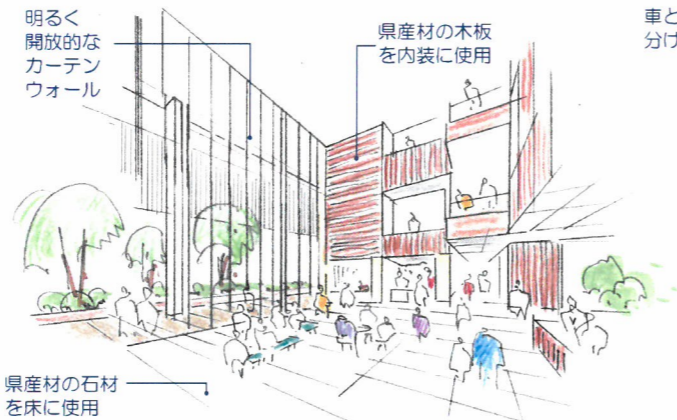
(3) 人にやさしく、環境に配慮した庁舎のあり方に関する提案

みんなのことを考える

- ・・・機能性と快適性を長期に維持し、健全な庁舎の運営を可能にするために設計→建設→運用→廃棄といった長期的な視野に立ったライフサイクルを通じ、初期建設コストの低減、ランニングコストを抑えるための設計を計画します。

■ユニバーサルデザインについて

- ・各室の動線が明快で分かりやすい平面構成、視認性に配慮した色彩計画、サイン計画
  - 中庭を軸とした各室の配置
- ・使いやすいディテール
  - カウンター、多機能型トイレ、手洗い、建具のハンドル、車いす対応エレベーターなど
- ・安全で安心して利用できる
  - 出入口など庁舎内は段差がなく、滑りにくい床材、必要な場所には手摺りをもうけます
- ・県産材、自然素材の仕上げによる心地良い庁舎
  - 木の持つぬくもりのある県民ホールや執務室とし、地域の森林・木材産業の振興をはかります



開放的な県民ホールのイメージスケッチ

■省エネルギーと再生可能エネルギーについて

- ・自然を取り入れ、環境と共生する建物を計画します。
- ・外装をレンガブロック積による断熱強化により環境負荷を低減し、ランニングコストを縮減します。
- ・自然採光、自然通風、庇による日差しの遮蔽、樹木の木陰の効果などによりコストの掛からない自然エネルギーの利用を積極的に取り入れます。
- ・多様なエネルギー源を確保します。
- ・太陽光パネル（100kw）を屋上に設置し、システムは電力会社と系統連系方式とし、太陽光発電での電力を建物に供給し、余剰は蓄電して停電時に利用します。
- ・雨水の再利用は雨水貯留槽に貯留し、簡易ろ過により「中水として再利用」し、トイレ、散水に利用することを検討します。

■ライフサイクルコストとCO2排出削減に配慮した計画

- ・運転コストが大きい空調設備は電気タイプとガスタイプの熱源システムが考えられます。性能や操作、運転コストは同一ですが、建設コストはガスタイプが高く、CO2排出量は電気タイプが高くなります。また、脱炭素化社会のシステムで水素ガス利用も考えられます。ライフサイクルコストとCO2排出量が同一レベルでない場合があるため、環境を踏まえた総合的なコストバランスの取れた計画とします。

■ファサードの考え方

- ・・・ロ字形の平面形状を活かし、メイン道路に面した西側立面と広い駐車場に面した南側立面の両方に豊かな植栽帯を配し、潤いのある正面性をもたせた計画とします。



自然と融合した『県民のための庁舎』のイメージスケッチ

(4) 社会環境の変化に対応できる庁舎のあり方に関する提案

今のこととこれからのこと

- ・・・庁舎建築としての価値を継続し永く地域に貢献するには、空間的ゆとりと共に経済的持続性、時代の変化による組織再編成等に柔軟に対応できる庁舎とします。

■高度情報機能を有したシステム

- ・時代と共に変化する行政需要、社会的ニーズの変化や働く人の多様な働き方にもスムーズに対応する情報システムを設計します。コロナ禍でのリモートワークやWEB会議にも対応できる環境を構築します。

